

## 各指定校における「いじめ未然防止プログラム」の特徴【高等学校】

学校名	特 徴	該当ページ
岩見沢西 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「大学と職業を考える講話」など、生徒が仲間とともに将来への目標を明確にする活動を意図的、計画的に位置付け、希望する進路の実現に向けた意識を高めることを通じて自己有用感を育んでいます。</li> <li>●従前の学校行事等を見直し、生徒同士が関わる場面を多く設けることにより、互いに絆を深めることができるよう、指導の工夫を図っています。</li> </ul>	◆128～129 頁 ■199～200 頁
札幌東豊 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全校生徒と教師による挨拶運動や、ボランティア活動などの地域行事へ積極的に参加することにより、望ましい人間関係を築く力やコミュニケーション能力の基礎を育んでいます。</li> <li>●活動の初めの段階では、主に教師が活動を指導し、生徒が活動の進め方について理解できた時点で、生徒会が中心になって活動できるよう、指導の工夫を図っています。</li> </ul>	◆130～131 頁 ■201～202 頁
倶知安農業 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居場所づくりと絆づくりを中心に、規範意識の向上を目指した活動や共同的な活動を通して、生徒に「拒否する力」や「相談する力」を育成しています。</li> <li>●生徒の自己理解と教職員の生徒理解が進むよう、教育相談や生徒理解会議、「ほっと」の活用、コミュニケーションスキルトレーニングを行うなど、指導の工夫を図っています。</li> </ul>	◆132～133 頁 ■203 頁
登別青嶺 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講演会でロールプレイングを行ったり、意図的に生徒同士がコミュニケーションを図る場面を設けたりするなど、生徒のコミュニケーション能力を育んでいます。</li> <li>●生徒が落ち着いて、安心して学習に取り組めるよう、「ほっと」や「hyper-QU」を行い生徒理解に努めるとともに、生徒の居場所づくりにつながるよう、指導の工夫を図っています。</li> </ul>	◆134～135 頁 ■204 頁
富川 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年間を通して、構成的グループエンカウンターや生徒会執行部の活動を意図的、計画的に活用して、生徒が互いを認め合える人間関係を築く力を育成しています。</li> <li>●とりわけ、1年生を中心に、仲間の新たな一面やよさを発見することができるよう、コミュニケーションの図り方を学ぶ学習を行うなど、指導の工夫を図っています。</li> </ul>	◆136～137 頁 ■205 頁
函館中部 高等学校 (定時制)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年間を通して、構成的グループエンカウンターなど教育相談の手法を学級づくりに活用し、コミュニケーションスキルなど望ましい人間関係を築く力を育んでいます。</li> <li>●「ほっと」の分析結果に基づいた教育相談を年3回行い、生徒が抱える課題の早期発見・早期解決に努めています。</li> </ul>	◆138～139 頁 ■206～207 頁
上ノ国 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●異年齢交流の場면을意図的、計画的に設定し、生徒同士の信頼関係を深めるなど、望ましい人間関係を築く能力を育んでいます。</li> <li>●とりわけ、生徒のリーダーシップを育成するため、リーダー研修に参加させたり、リーダーが中心となった活動を行ったりするなどの指導の工夫を図っています。</li> </ul>	◆140～141 頁 ■208 頁
旭川工業 高等学校 (定時制)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●希望する進路の実現に向けて、「ものづくり教室、おもちゃの修理屋さん、作品展示等」の活動を通して、地域の人々と触れ合い、認められることにより自己有用感を育んでいます。</li> <li>●進路実現に関しては、「各種資格・検定の指導」や「外部講師による面接指導」を行うなど、生徒の不安感を取り除くため、指導の工夫を図っています。</li> </ul>	◆142～143 頁 ■209 頁
幌加内 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンテナショップを生徒が主体的に企画・経営する学習において、生徒同士の協力や来店するお客様への対応について学ぶことを通じて、自己有用感を育んでいます。</li> <li>●自分と異なる考えや立場の人を理解することができるよう、異世代との交流する場面に学習に位置付けるなど指導の工夫を図っています。</li> </ul>	◆144～145 頁 ■210 頁
遠別農業 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常の授業において、討論や発表の場面を取り入れ、コミュニケーションに必要な自分の考えを表現したり、相手の考えのよいところを見付けたりする力を育んでいます。</li> <li>●生徒の実態を把握するため、教育相談週間の設定や事後の生徒理解会議を実施するとともに、職員会議の中で「気になる生徒」の指導の在り方について、情報共有や共通理解を図っています。</li> </ul>	◆146～147 頁 ■211 頁
枝幸 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒会行事に関わる取組や地域の人々と関わる活動を通して、他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする力を育んでいます。</li> <li>●「学習会」の実施や地域の人々を活用した「町内企業説明会」、年間を通じたコミュニケーション・トレーニングを中心に、居場所づくりができるよう、指導の工夫を図っています。</li> </ul>	◆148～149 頁 ■212 頁
北見工業 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いわゆる「職業高校」の特色である実習や課題研究における小集団学習を生かし、生徒同士、生徒と教師の絆を深めるとともに、地域イベントへの参加を通して自己有用感を育んでいます。</li> <li>●学校、専門学科、学級、グループなど、活動のねらいに応じたグループ編成について工夫を図っています。</li> </ul>	◆150～151 頁 ■213 頁
新得 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニケーションスキルトレーニングを学び、学んだことを生かす場面を位置付けたりする学習を通じて、コミュニケーション能力を育んでいます。</li> <li>●望ましい集団の育成に資する特別活動の推進や、生徒一人一人の進路実現を図るきめ細かな学習指導など、進路指導の工夫を図っています。</li> </ul>	◆152～153 頁 ■214～215 頁
釧路東 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年間を通じて、読み聞かせや校外清掃などのボランティア活動を意図的、計画的に位置付け、その報告会を実施するなど、他者を思いやる心を育んでいます。</li> <li>●「震災ボランティア」や「まちづくり講座」など校外活動や研修に代表生徒を参加させ、学んだことをシェアリングさせることで生徒が共通理解を図ることができるよう、指導の工夫を図っています。</li> </ul>	◆154～155 頁 ■216 頁
根室西 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の機関や企業、北方領土研究会など様々な教育力を活用し、地域や、ともに生きる仲間を大切にしている心情及び態度を育んでいます。</li> <li>●教育相談の充実を図るとともに、「ほっと」などの諸検査の結果を基に生徒理解を図り、生徒との信頼関係づくりに努めています。</li> </ul>	◆156～157 頁 ■217～218 頁

【注】「特徴」は「年間の取組計画」から抜粋。「該当ページ」は上段(◆)「マトリクス」「年間の取組計画」、下段(■)「主な活動」